



食包協会報 第 182 号 (2024 年 4 月号) ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび 182 号 (2023 年 4 月号) を公開致しました。今号では「環境」をメインテーマに据え、3 編の記事および会告を掲載しております。

まず、最初の記事では大和製罐株式会社環境室の室長であります赤地利幸様に「食と包装の未来」と題しまして、代替食品とフードロス、3D フードプリンター、容器包装とリサイクルおよび気候変動との関係に至るまで幅広い展望を論述いただきました。未来における食の進化と環境問題に、イノベーションとサステナビリティをもって対応していくことの必然性が理解できる内容となっております。

次の記事では「福井県若狭湾での海ごみの現状」と題しまして、Anomiana (アノミアーナ) 代表の西野ひかる様に、同団体で取り組まれております若狭湾に漂着するプラスチックごみの回収、リサイクルおよび商品化に関する活動について解説いただきました。漂着ごみの量や内容についての現状を知ることはもちろん、素材や劣化の程度が様々なものをどのような商品に再生できるのかを知るといった点においても興味深い内容です。

また、「EVOH による食品ロス削減と環境配慮型包装への貢献」と題し、三菱ケミカル株式会社ソアノール研究開発グループ・マネジャーの中西伸次様に、同社の EVOH を用いた製品の食品の品質保持性能およびリサイクル適性について解説いただきました。EVOH の高い酸素バリア性とそれによる食品の棚持ち期間の延長につきましては、既に広く知られているところではありますが、さらに本解説ではそのリサイクル適性に関して、欧米の業界団体でのリサイクル認証の取得と技術的なデータについても紹介しながら解説いただいております。

最後に、会告として事務局から弊協会が開催いたします「包装学校」の案内をさせていただきました。今年度で 3 期目を迎える包装学校ですが、受講者からの質問に担当講師が全て回答するというスタンスをとっていることもあり、参加者から好評をいただいております。会員企業様におかれましては、是非、新人・若手技術者の参加につきましてご検討いただけましたら幸甚に存じます。

当広報活動委員会では、弊協会の設立・活動趣旨に則り、会員の皆様にとって有益かつ魅力ある記事の発信に努めて参る所存です。引き続きのご愛読を賜ります様、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受け下さいました赤地様、西野様、中西様に心から厚く御礼申し上げます。

2024 年 4 月 16 日

広報活動委員会委員長 北澤 裕明